

長野県産シダ植物の新産地 (4)

上野 勝典* 上野由貴枝*

New localities of some pteridophytes in Nagano Prefecture (4)

Katsunori UENO and Yukie UENO

はじめに

既存の文献(「長野県植物誌」,「CD-ROM 長野県植物誌資料集」,「長野県版レッドデータブック」,その他市町村誌自然編など)に分布情報の記載が無いが,または分布上注目されるシダ植物について,前報(上野・上野 2006)に引き続いて報告する。種の同定においては「日本の野生植物 シダ」と「信州のシダ」を主に参考にした。なお,標本の採集者は上野勝典・上野由貴枝である。

オオバヤシャゼンマイ *Osmunda × intermedia*
塩尻市宗賀釜の沢 880m 2006年10月21日
NAC143164

溪流脇の,水のかぶるような場所に一株のみ生育していた。本種はゼンマイとヤシャゼンマイの雑種で,ゼンマイと比べるとやや小羽片が狭く,基部が楔形になる傾向がある。南部を中心に分布しており,しばしばヤシャゼンマイが近くに無くても見られる。ヤシャゼンマイは塩尻市では報告されていない。

ウチワゴケ *Crepidomanes minutum*
上田市独鈷山 720m 2006年6月10日 NAC143181
佐久市田口(旧白田町) 770m 2006年10月9日
NAC143168
波田町竜島黒川 760m 2006年10月22日
NAC143162

独鈷山は岩場が多く,着生シダの生育環境として良好な場所が多い。本種はやや暗い岩場に小さな群落を作っていた。周囲の岩場ではハコネシダやイワヒバが旺盛に生育していた。近くにはほかにエビラシダやカラクサシダが見られた。黒川では溪流脇の岩場で,他にホソバコケシノブやヒメコケシノブが多く見られた。

* 上野勝典 〒399-0011 松本市寿北2-2-38

ウチワゴケは暖地性のシダで,県南部の天龍村では比較的普通に見られる種だが,それほど報告は多くなく,県中部では塩尻市での報告(上野・上野 2005)がある。小型でコケのように見えることからこれまで見逃されている可能性がある。

チチブホラゴケ(コケシノブ科)

Crepidomanes schmidtianum

伊那市白岩岳(旧長谷村) 1300m 2007年6月16日

溪流脇の岩にまとまって生育していた。本種はハイホラゴケの仲間で根茎に褐色の毛を密生させ,胞子囊群がラッパ状で,緑が切れ込む特徴がある。旧長谷村では巫女淵での記録を新産地として報告したが(上野・上野 2005),今回別の場所で見つかったので報告する。長野県絶滅危惧ⅠB類。

シノブ *Davallia mariesii*

松本市稲核(旧南安曇村) 810m 2006年10月22日

NAC143165

波田町竜島黒川 760m 2006年10月22日

NAC143161

夏緑性のシダで,岩場や樹木に着生する。全県に分布するが,南部に多く見られる。稲核では,かなり乾いた岩場の,アカマツの根元にコケとともに着生していた。黒川では溪流脇の岩場上部に多数生育していた。個体数はかなり多いようである。近くでは塩尻市や青木村で観察したことがある。

ヤマドリトラノオ *Asplenium × kobayashii* (写真1)

伊那市戸台(旧長谷村) 1050m 2006年8月19日

NAC143166

石灰岩の岩場に一株のみが孤立して生育していた。先に報告したように松本市でも昨年見つかった(上野・上野 2006)。本種はクモノスダとトラノ



写真1 ヤマドリトラノオ 伊那市 2006年8月19日

オシダの雑種でクモイワトラノオやイセザキトラノオに似ているが、最下羽片が扇状に軸に延着する点がとくに異なる(大塚 1987)。本種は長野県の希少雑種とされるときに、国の絶滅危惧ⅠA類に分類されている。

アイアスカイノデ *Polystichum longifrons*

松本市中山 700m 2006年3月11日 NAC143171

北向きの緩やかな斜面の杉林に、本種が3株ほどまとまって生えているのを見つけた。周囲にはそのほかイノデモドキ、ベニシダなどの暖地性シダも見られた。アイアスカイノデは葉面の色が濃い深緑色で光沢があり、いかにも暖地性を感じさせるシダであるが、比較的寒いところでもときどき見られる。県内では南部を中心に分布し北部でも稀に報告されているが、中部での報告は無かった。

サイゴクイノデ *Polystichum pseudo-makinoi*

塩尻市柿沢 870m 2006年12月23日 NAC143183

杉林中の細い溪流脇に一株だけ見つけた。周囲にはイノデモドキ、ツヤナシイノデが見られた。暖地性のシダで、表面に艶が無く、孢子嚢群は片縁寄りに付き、特に耳に優先して付く。鱗片の基部に黒い色が混じる。最近、松本市内でも観察した(上野・上野 2005)。

イワヘゴ *Dryopteris atrata* (写真2)

塩尻市上西条 820m 2006年3月26日 NAC143169

南木曽町大妻籠 600m 2007年3月4日

NAC144076

塩尻市では杉林下に一株のみが見られた。周囲にはイノデモドキが多数生育していた。イワヘゴは鱗片が黒褐色で、孢子嚢群が羽片全面だがやや中肋寄りに付き、羽片は下部でやや縮小する。6月ごろ、現地に再



写真2 イワヘゴ 塩尻市 2006年3月26日

来して新しい葉の展開を確認しようとしたところ、鹿の食害にあったと見られ、羽片がすべて食べられて葉柄のみとなっていた。今後の再生を期待したい。南木曽町では、北向きの斜面に10株近くがまとまって生育していた。周囲にはオオクジャクシダも数株が混生していた。県内では極めて稀な暖地性のシダで阿南町と田山口村での報告がある(大塚 2001, 長野県版レッドデータブック)。長野県絶滅危惧ⅠA類。

オオベニシダ *Dryopteris hondoensis*

松本市中山 700m 2006年2月19日 NAC143170

塩尻市旧塩尻 900m 2006年4月16日 NAC143176

ともに杉林内に一株が孤立して生育していた。オオベニシダはベニシダに似ているが、葉面は艶の無いやや黄色っぽい緑色で、最下羽片の第一小羽片が切れ込み、羽片の葉柄がやや長い。暖地性のシダで県南部を中心に分布しているが、県中部での報告は無かった。

アメリカシラネワラビ *Dryopteris intermedia*

(写真3)

上松町荻原 780m 2006年10月14日 AICH 上野・上野 s.n., NAC143323

林道沿いの法面で、見慣れないシダを見つけた。成熟しているものは一株のみであったが、周囲には幼株と見られるものが10株ほど生育しており、他にオシダ、ホソイノデ、オクマワラビなどが見られた。全体として卵形をしており、羽片は草質で光沢は無く小羽片はノギ状にとがり、孢子嚢群は円形で中肋寄りに付く。葉柄基部の鱗片は黒褐色をしており、中軸の鱗片は羽片根元に宿在している。愛知教育大学の芹沢俊氏に同定していただいたところ、北アメリカ産の *Dryopteris intermedia* A.Gray とのことであった。本種は日本では2003年に岡山県で小畠裕子氏によつてはじ



写真3 アメリカシラネワラビ 上松町 2006年10月14日

めて発見され、アメリカシラネワラビと呼ばれた（小島 2003）。中池敏之氏が報告しているように、国内ではこれまで岡山県でしか報告されていないので（中池 2003）、これが国内2例目になると思われる。日本に入ってきた経過は、詳しくはわかっていない。長野県新産。

キヨスミヒメワラビ *Ctenitis maximowicziana*

阿南町帯川 500m 2007年4月15日 NAC144002

溪流脇の杉林の斜面に10株前後が散在して生育していた。葉柄には白色の鱗片を密につけ、葉面の色も鮮やかな緑色で全体的に美しく、比較的区別が容易である。木曽谷や天龍村に分布しており、阿南町では天竜川沿いでも何度かキヨスミヒメワラビを観察していたので、阿南町では比較的広く分布しているのではないかと思う。長野県絶滅危惧Ⅱ類。

チャボイノデ *Polystichum igaense*

阿南町南条 2007年4月30日 NAC144000

林道脇の斜面に数株が生育していた。イノデモドキの小さいものによく似ている。葉はより狭く細長い。

小さな胞子のう群が辺縁につく。近くでは天龍村、飯田市、南木曽町で観察したことがあり、県南部を中心に分布している。長野県絶滅危惧Ⅱ類。

ミツデウラボシ *Crypsinus hastatus*

茅野市美濃戸 1500m 2006年8月20日 NAC143167

ミツデウラボシは暖地性とされるが、全県に分布し、長野県植物誌によれば標高2000m付近でも報告があるという。現地では溪流脇の岩場に着生していた。その岩場ではナヨシダのほか、高山性のミヤマウラボシも混生しており、過去に伊那市三峰川（旧長谷村）の大きな岩に両者が混生しているのを見たことがある。生育環境が似ていることから、両者の分布域が重なって混生したものと思われる。

オオエビラシダ *Gymnocarpium × bipinnatifidum*

（写真4）



写真4 オオエビラシダ 伊那市 2006年9月24日

伊那市戸台（旧長谷村） 1100m 2006年9月24日

NAC143156

溪流脇の岩場上部に、数m四方にわたって、10株前後がまとまって生育しているのを見つけた。周辺にはイワウサギシダが多数あり、エビラシダもわずかながら見られた。本種はイワウサギシダとエビラシダの雑種とされ、イワウサギシダの特徴を受け継ぎ葉柄や中軸に腺毛が見られる。当地の標本は、羽片はどちらかといえばエビラシダに似ているが、最下羽片では小羽片も独立するまでに切れ込んでいる。今まで長野県佐久市と大鹿村からしか報告がなく（大塚 1988、宮本 1988）、長野県固有とされる。長野県希少雑種。

オオクボシダ *Xiphopteris okuboi*

飯島町与田切川 1100m 2007年5月2日

NAC144004

北向き斜面の湿った岩場にまとまって生育していた。小型のシダ植物で、一見してはシダのようには見えず、コケと見間違いやすい。暖地のシダとされるが、比較的涼しいところでも見られるように思う。ほぼ全県に分布しているものの、伊那谷の中央アルプス側での報告はこれまでなかったようである（長野県版レッドデータブック）。長野県準絶滅危惧。

前報の訂正

前報の上野・上野 2006において、写真2ニオイシダの撮影日が2004年となっていたが、2005年の間違いなので、ここに訂正する。

謝 辞

シダ植物の同定、関連の参考文献の紹介、ならびに本報告の作成にあたり、貴重な助言をいただきました長野県環境保全研究所&バーバリウム（NAC）の大塚孝一氏に心より感謝の意を表します。

またアメリカシラネウラボの同定においてご協力いただきました、信州大学の佐藤利幸氏、豊橋市の瀧崎吉伸氏、および同定をしていただきました愛知教育大学の芹沢俊介氏には、心より感謝の意を表します。

引用文献

安曇村（1998）安曇村誌。第一巻 自然。
上野勝典・上野由貴枝（2004）長野県産シダ植物の新産地。長野県植物研究会誌，37：45-48。
上野勝典・上野由貴枝（2005）長野県産シダ植物の新

産地(2)。長野県植物研究会誌，38：133-136。

上野勝典・上野由貴枝（2006）長野県産シダ植物の新産地(3)。長野県植物研究会誌，39：123-127。

岩槻邦男編（1992）日本の野生植物 シダ。平凡社。
大塚孝一（1987）長野県におけるチャセンシダ属植間雑種の産地及びその識別について。長野県植物研究会誌，20：122-123。

大塚孝一（1988）長野県のシダ植物雑記(4)。長野県植物研究会誌，21：26-30。

大塚孝一（2001）長野県のシダ植物雑記(9)。長野県植物研究会誌，34：35-40。

大塚孝一（2004）信州のシダ。ほおずき書籍。

小島裕子（2003）道路脇法面に帰化したアメリカシラネウラボ。日本シダの会会報。第3巻35・36号：3-4。

清水建美監修（1997）長野県植物誌。信濃毎日新聞社。

志村義雄（1992）日本のイノテ属。

中池敏之（2003）ワタナベシダ・アメリカシラネウラボ。日本シダの会会報，第3巻35・36号：20-21。

長野県（2002）長野県版レッドデータブック維管束植物編。

長野県植物誌資料集作成委員会（2005）CD-ROM 長野県植物誌資料集（普及版）。

松本市（1996）松本市史。第一巻 自然編。

宮本 太（1988）日本産ウサギシダ属の新雑種。植物研究雑誌，第63巻第1号：19-21。

矢原徹一監修（2003）絶滅危惧植物図鑑レッドデータプランツ。山と溪谷社。